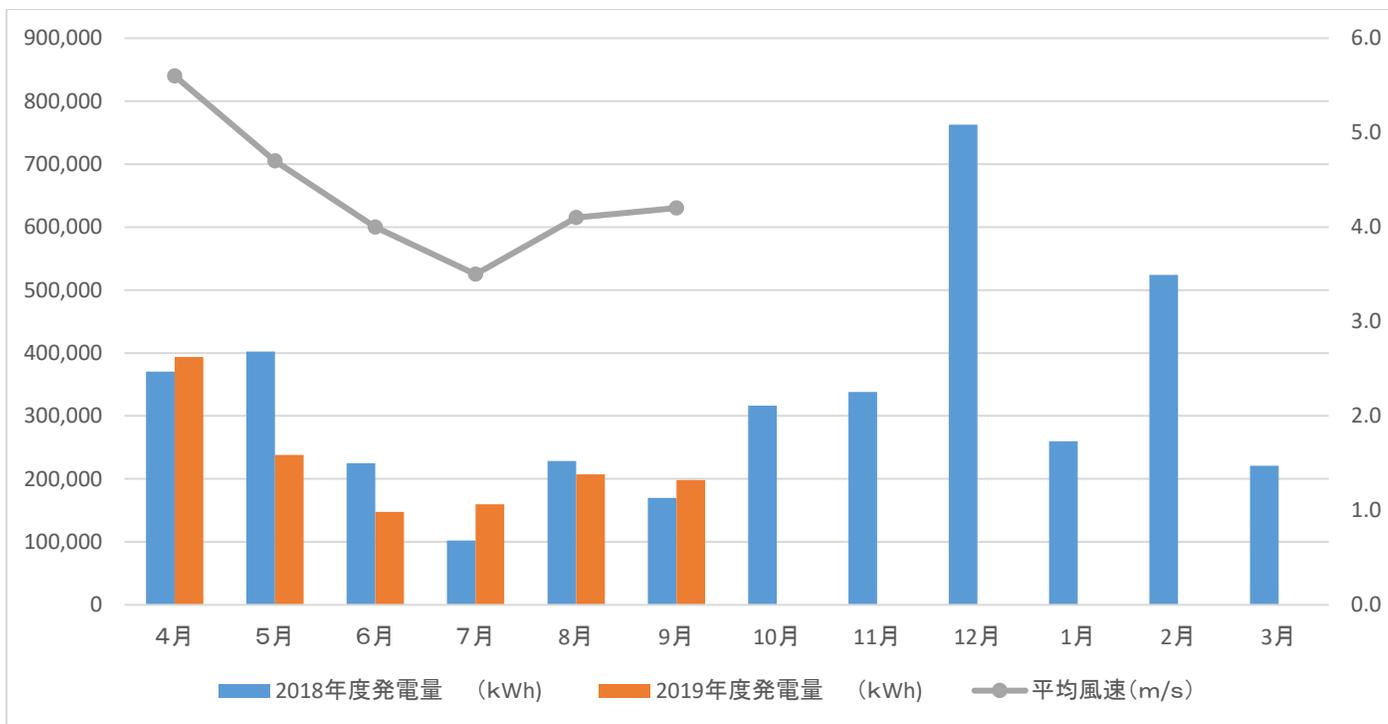


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



9月度運転状況について

- 風況は前年同月より0.2m/s 高い実績でした。
- 順調に稼働したことから発電量は前年比**116.6%**となりました。
- 9/12～18 に 7.5 年次点検を実施しました。

生活クラブ風車「夢風」のオペレーションとメンテナンスは、委託先の(株)市民風力発電により丁寧に行われています。毎年の年次点検と半年点検では風車のタワー、ブレード、ナセル内の各部品の点検を細かに実施しており、毎月の月例点検も行っています。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月	147,508	4.0	96.9
7月	159,901	3.5	99.6
8月	207,146	4.3	97.7
9月	198,307	4.2	96.6
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

「おだやかな革命サミット」が開催されました

2019年9月29日に東京千代田区のアーツ千代田 3331 を会場に「おだやかな革命サミット」が開催されました。ドキュメンタリー映画「おだやかな革命」は、2018年の公開から全国30カ所以上の劇場公開と150カ所を超える上映会が開催されました。この映画は、エネルギー自治の取り組みを通じて、人と地域の関係性を含めた、これからの豊かさを問う映画です。生活クラブのエネルギー政策や秋田県にかほ市との取り組みも紹介されています。この日は、映画の中に登場する各地の「おだやかな革命家」をゲストとして、シンポジウムや意見交換が行われました。

シンポジウム1では、「映画出演者によるトーク・おだやかな革命の広げ方」をテーマに、高橋真樹さんを司会に、会津電力取締役会長の佐藤彌右衛門さん、NPO 法人地域再生機構副理事長の平野彰秀さん、sonraku 代表取締役の井筒耕平さん、SDGsライターの松尾沙織さんが登場しました。映画出演者による現在の活動と問題意識に触れながら、SDGs(持続可能な開発目標)の観点からいかに、エネルギー自治の重要性を捉えるかという話を伺いました。



シンポジウム2では、「小さな流通でつながるトーク、暮らしの選択」をテーマに、渡辺智史監督を司会に、生活クラブエナジー代表取締役でグリーンファンド秋田代表理事の半澤彰浩さん、石徹白洋品店店主の平野馨生香さん、パタゴニアの篠健司さん、文化人類学者の辻信一さんが登場しました。

日々の暮らしの選択や、顔の見える関係から、地域から、自分たちの手でどのようにローカル経済をつくっていけるのか、それぞれの地域での実践や今後の展望を伺いました。

シンポジウム2の様子

おだやかな革命マーケットも開催され、石徹白洋品店の洋服や西粟倉村の森の学校の商品と並んで、生活クラブ首都圏4単協で、夢風ブランド品や遊佐のポン菓子などの販売をおこないました。会場は、おおぜいの参加者で賑わいました。



また、タラーメンの試食と、生活クラブのみかんジュースとコーヒー、お茶の試飲を行いました。タラーメンの試食は大好評で、とても美味しいという声を頂き、販売もあっという間に完売となりました。



タラーメンの試食は大好評でした。



タラーメンの試食をつくる半澤専務

「さよなら原発全国集会」に生活クラブが参加しました

9月16日、原発のない暮らしを目指す「さよなら原発全国集会」が東京の代々木公園で開催されました。

核兵器廃絶を目指して署名活動をしている高校生たちも参加し、約8000人(主催者発表)の市民が参加しました。

生活クラブ首都圏4単協ではブースを出展し、「生活クラブでんき」のアピールのために、にかほの夢風ブランド品の販売を行いました。「生活クラブでんき」は原発によらない、自然エネルギーを中心とした電気です。生活クラブ風車「夢風」も「生活クラブでんき」の電源の一つです。

生活クラブ組合員が、集会後に渋谷駅方面にデモ行進を行う様子が、東京新聞の一面に掲載されました。



巨大な勢力の台風が、相次いで日本列島を襲っています。その要因は、地球温暖化により海水温が上昇したことによる大量の水蒸気が台風のエネ​​ルギーとなっているためだといわれています。

9月25日、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が「海洋と雪氷圏に関する特別報告書」を公開し、地球温暖化対策を強化しなければ、今世紀末には海面が1メートル以上上昇し、氷河は40%以上失われ、高潮や巨大台風による災害リスクが増すと警告しました。

この報告書によると、海面の高さはこれまでの約100年間に最大21cm上昇しました。グリーンランドや南極などの氷が解けて上昇のペースが加速しています。

海面上昇は、気温上昇がもし3度以上した場合、2100年には2000年と比べて最大1.1メートル上ると予測しています。厳しい対策をとって気温上昇を1.5℃に低く抑えた場合でも最大59cm上昇すると分析しました。

また、報告書では、海水温の上昇などにより海の生態系に深刻な変化が出るとの予測も示しています。2100年までには世界全体で海洋生物が最大20%減り、漁獲可能な魚の量は最大24%減少する予測です。

白化によるサンゴ礁の減少や魚介類の減少、海岸の浸食、観光業の衰退といった悪い影響が予想されます。

世界の氷河は、今世紀末までに最大47%減少し、特にヨーロッパのアルプスなどの小規模な氷河は最大80%失われる予測です。山の氷河や雪が溶けやすくなり、水力発電や農業分野の水利用に影響するほか、洪水や雪崩、地すべりなどの危険もたかまると分析しています。

IPCCは「温暖化抑制のため、エネルギーや土地利用といったあらゆる面で変革が必要だ。」と指摘し2020年に本格始動するパリ協定のもとでCO2排出を迅速に減らす必要性を強調しています。

今世紀末は、あと80年後です。地球温暖化の影響は、遠い未来のことではなく、私たちの子供や孫が生きる時代のことです。石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料は多くのCO2を排出します。エネルギー源を化石燃料から自然エネルギーに早急に変えていくことが必要です。

※IPCCは、国連環境計画(UNEP)と世界気象機関(WMO)により1988年に設立された政府間機関。これまで5回にわたり地球温暖化に関する評価報告書を作成・公表し、国際交渉、各国の政策決定の基礎となる科学的知見を提供してきた。現在第6次評価報告書(AR6)公表に向けた作業が進行している。報告書の作成には、世界各国の研究者数千名が参加する。

【IPCC 特別報告書のポイント】

- ・海面の高さはこの100年ほどで最大21cm上昇し、ペースが加速
- ・温室効果ガス排出が最も多い場合、今世紀末に最大20世紀末ごろと比べ海面は1.1m上がる。
- 排出を低く抑えた場合でも最大59cm上昇
- ・勢力の強い温帯低気圧が増えるほか、高潮などのリスクが増加
- ・海水温の上昇などで、海洋生物が最大20%減り、漁獲可能な魚の量は最大24%減少する
- ・世界の氷河は最大47%減少し、特に小規模な氷河は最大80%以上失われる
- ・氷河などの減少が水力発電や農業分野の水利用に影響。洪水や雪崩、自滑りの危険が増大

出典：2019/9/26 東京新聞